

第1回 都立高校の魅力向上等に係る懇談会 議事要旨

日 時：令和7年11月6日（木曜日） 17時00分から19時00分まで

会 場：都庁第一本庁舎42階 特別会議室A

出席委員：11名（欠席2名）

1 開会

○ 座長選出

委員の互選により、菊地栄治委員を座長に選任

○ 副座長選出

菊地栄治座長の指名により、金子嘉宏委員を副座長に選任

2 議事

○ 東京都教育委員会教育長挨拶

東京都教育委員会教育長から次のとおり発言があった。

- ・ 社会、経済の変化のスピードが目まぐるしく変わっている中、都立高校が輩出する人材が世の中でどのように活躍していけるのか、ニーズにどのように都立高校が答えていけるのか、これは都立高校だけに限らず全国の公立高校共通の重要課題となっていると言っても過言ではないと思っている。
- ・ 国においてグランドデザインを出すという方針の中、我々としてそのような一連の流れにしっかりとキャッチアップをする以上に、先に進んでリードをしていく、そのようなご意見、ご提言を多々頂戴できればと思う。
- ・ これから2年間にわたって議論をお願いすることになるが、そこで様々出てくる意見について、我々はしっかりと1つの計画もしくはビジョンといった形にしていきたいと考えている。
- ・ ただし、時代の流れはスピーディーである。そういった中では、議論の収斂を待ってからアクションを起こすということでは遅いという内容も多分にあるのではないかと考えている。
- ・ 中長期的な視点と同時に、今直面する課題に速やかに対応するためには、今まさにこれをやるべきだという内容について忌憚のないご意見、ご提言を賜りたい。
- ・ 来年度の8年度には中間のまとめ、そして9年度には最終のまとめ、このようなステップを踏んでいく。

○ 都立高校の概要と現状等について

事務局からの説明に対して、委員から次のとおり発言があった。

- ・ 私立の先生が4月あたりからいろいろな形で学校案内をするように、都立高校も入試相談という形を地元中学に行くと良いと思う。
- ・ 都立高校においても、転校が容易にできれば「自らの人生を舵取りする」ということができるのではないか。
- ・ グローバル人材の育成について、東京都は予算も内容も全国トップレベルであり、様々な取組を継続していることは大変素晴らしい。国際交流の機会や海外大学の進学支援など、東京や日本の将来を支えていくような人材育成を一層期待したい。
- ・ 魅力を向上した結果どうしたいのかを議論する前に決めていく必要がある。公教育として、ビジネスとしては成立しづらいところに目配りをしなければいけない。
- ・ 東京都として、戦略的にどういう人材をつくりたいのか。戦略的な人材は、私立の高校を外しては語れない。私立と両輪でやっていく中で都立の高校がどういう位置づけになっていくのか、公としてどういう教育をしていかなければいけないのかということも議論していけたらよい。
- ・ 学びに対して非常に受け身になっている学生が増えている。一人一人見てあげる、正しく進路指導をしてあげるといったことが必要。大学全入時代において、一人一人の高校生がどういう成長を望み、どういう進路や将来を実現しているか検証をしていかななくてはならない。
- ・ 自分で何か動いた実績であるとか、何かつくって試行錯誤した実績であるとか、より見える化してシェアできるような仕組みがあるとよい。
- ・ 異なる学校との交流、特に病気や障害がある方はどうしても今は分かれてしまっていることが本当にもったいない。何か一緒になって創り出すような機会をうまく創出してほしい。
- ・ 家庭の経済格差により機会の格差が生じている。学校など公的な場で、プログラミングといった新しいテクノロジーと遊べる場もつくっていくとよいのではないか。
- ・ 子供と進路選択の話をした際は、施設や設備が一番の話題であった。校舎が改築されたら、入試の倍率が上昇したことは印象深い。
- ・ 都立高校を島しょ部の学校含め、20校ほど見学した。エアコンや洋式トイレなど、学習・教育環境の整備は是非お願いしたいと思った。また、施設の整備や稼働に関する予算についても今後考える機会があるとよい。
- ・ 部活動に打ち込んでいる中学生は、その継続ができるかも学校選びにおける重要な要素。部活動に力を入れている私立は、中学生を個別でスカウトしている。馬術やフィルハーモニーで有名な都立高校を知っているが、187校ある各校が1つずつ、何

かの部活動を特色化すると、「都立の、この学校に行こう。」という選択を中学生がすることも考えられるのではないか。

- ・ 社会の変化に応じながら、その時代のニーズに応じて対応していかななくてはならない。その一方で、進学指導重点校とか、いわゆる進学に特化したような学校の人気が出ているので、そこは1つの魅力としてアピールしていくところだと思う。
- ・ 不登校など様々な困難を抱えた生徒が増えている。チャレンジスクールのニーズは高く、チャレンジスクールは多様な選択科目を置くことによって生徒の興味・関心を引きながら授業を受けられるというところもあるので、それが楽しく学びにつながり、登校できている生徒もいる。
- ・ 過去勤務した都立高校のサッカー部が全国大会へ出場した際、メンバーには「私立ではレギュラーをとれないかもしれない。」という思いで都立を選んだという生徒もいたが、一丸となって頑張ることで、成果を上げることが出来た。
- ・ 中学生は、「まずは高校で学びたい」と考えるのだが、次に自分の希望する進路を実現してくれる、自分のやりたいことや個性を認めてくれる、伸ばしてくれるという視点で学校を見ている。
- ・ 広域通信制の学校は、以前は学校に距離を置いていた中学生が多く進学していた印象だったが、昨今は「今、やりたいこと・好きなことに取り組めるか、望む将来に直結しているか」というキャリアプランを持った中学生が積極的に選んでいる様子もある。
- ・ 私立との対立的なロジックにはまらず、色々な可能性を考えていきたい。

○ 第2回以降の懇談会の進め方について

座長から議論を深めていく中、より自由かつ活発な意見交換が行われるよう非公開とする旨の発言があった。

3 事務連絡

○ 事務局より

教育長から次のとおり発言があった。

- ・ 早速、実行に移していく。特に学びについては予算を追加してでも良い取組ができればと思っている。
- ・ 施設、設備については、今年度予算の中でもできる部分から進めていく。来年度も、今まで以上のスピード感で取り組んでいく。
- ・ 部活動について、都立高校として、生徒の興味、関心に応じていかなければならない。都立高校にも部活動の強豪校をつくってもよいのではないかと思う。早速、部活動の強豪校をつくるプロジェクトを進めていきたい。

○ 次回開催日程について

- ・ 第2回は11月20日（木曜日）開催

4 閉会